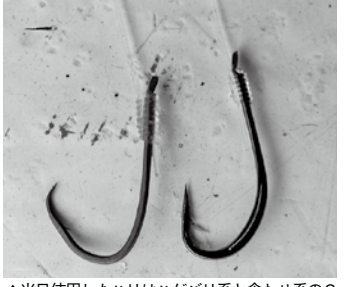


・Tackle Guide

仕掛けの基本はシンプルな胴つき3本ハリ。釣り方や釣り場によってハリの種類やハリスの長さ、集寄せや中オモリなど様ざまなパターンが存在し、こればかりは経験を積んで少ないし、こればかりは経験を積んで少ない。重要なのはハリ先の鋭さ。予備のハリを多めに用意し、頻りに取り替えよう。



▲当日使用したハリはハゲバリ系と食わせ系の2種。この日は丸セイゴ型の食わせハリにハリ掛かりがよかった

アタリがきたのですかさず竿先を送り、スーッと立てるとカンカンカンとうまくハリ掛かりした。上がってきたのは20センチ級のカワハギ。なんとかパタインをつかんだと思ったが、それ以降は外道のアタリばかりが続く。1時間後、久びさにゴンッと強いアタリがきたので、一呼吸置いてから合わせを入れるとハリ掛かり。23センチほどのまあまサイズを取り込んだ。

27センチ級が上がる

船長はこまめに流し変えては徐々に東へ移動しつつ、この時期としては深みのポイントである30メートルルダチも流してくれるが、なぜかアタリが連発する好ポイントには当たらない。やはり潮の濁りが影響しているのか本命のアタリは極端に少ない。生体反応がないのは経験の乏しいビギナーさんには辛い、いつ心が折れて釣りを中断

▼池田丸は初心者大歓迎。船長がエサの付け方や釣り方をていねいに教えてくれる



してもおかしくない状況だ。しかし、エサ取りの多彩なアタリのおかげで、飽きることなく釣りを続けられるのがこの釣りの魔力でもある。10時半、突然胴の間で歓声が上がる。見るとミヨシ3番で26、27センチの良型が上がった。そこから再び本命のアタリが遠のき時間だけが過ぎていき、沖揚がり10分前にトモ2番で25センチ級が取り込まれたが、これを最後に本日の釣りは終了。釣果は20、27センチのカワハギが一人0、2枚、5人で5枚とまれに見る激漁の一日

●船宿information

相模湾腰越港
池田丸
☎0467・32・2121
(詳細は巻末の情報欄参照)



遠藤 政嗣船長

▶料金=カワハギ乗合一人 9000円(エサ、水別) 生アサリ1袋 1000円、冷凍アサリ1パック 1300円
▶備考=予約乗合、6時出船。イナダ五目、フク乗合へも出船。貸し道具、仕掛け常備。駐車料金 700円



▲釣り場は腰越沖の水深12~30メートル

に遭遇してしまつた。とはいえ、3日後の17日は15、29センチが2、14枚と完全復調。10月以降のハイシーズンに向けて、徐々にペースは上がってくるだろう。



▲相模湾のカワハギは良型主体の滑り出し



▲根回りのポイントでは底を切ってエサ取りをかわしたい

9月14日、カワハギ狙いで相模湾腰越港の池田丸へ。三浦半島久比里では、カワハギは周年の釣り物として昔から認知されているが、ほかの地区では10月ごろから年明けまで一般的な釣期であり、どちらかといえば冬の魚だ。ところが近年のカワハギブームもあってか、シーズンも各地とも長くなりつつある。受付で親方に話を聞くと、夏カワハギをやりたいというお客さんが増えてきたため、希望で8月から出船していたとのこと。

が多い。とはいえ現在は9月中旬とあってシーズンのには端境期に当たるが、10月以降の盛期を占うにはいいタイミングかもしれない。平日とあってお客さんは4人グループが1組のみ。6時になり遠藤政嗣船長の操船で出船となる。

誘い方を工夫し様子見

最初のポイントは腰越沖の水深12メートル。船長の合図で一斉に釣り開始。4人グループのうち、自前のタックルを手に入れているのは大ドモだけで残る3人は貸し道具。釣りの経験はあまりないようだ。釣り始めると水温がまだ高い

●相模湾腰越港発↓腰越沖

フィッシングライター 訓覇啓雄 Hiroo Kuribe

アタリが多くて楽しい季節 相模湾のカワハギ本番目前

知得! 生アサリがベスト

カワハギ釣りではエサのよしあしが釣果を大きく左右する。池田丸では朝に受付け生のアサリを購入することができ、これが小粒で非常に上質だ。ただし、そのままとヌルヌルニューブニューしてエサ付けにくいので、塩やうま味調味料、あるいは専用の粉でアサリの身を締めて使うのが常套手段だが、締めすぎるとせっかくの生アサリの威力が損なわれる。そのため、海水で洗ってヌルヌルを落としたりザルに広げて水気を取り、そのまま使うか締めるにしても最小限に留めたほうがいい。

▶アサリエサはクーラーで保冷し、こまめに取り出して使おう

ことだが、昨日から急に濁りが入ったためアタリは激減してしまつたという。とりあえずタタキで様子を見るが、アタリがないので竿先をピョコンピョコンと上下させ続ける省エネ釣法に切り換える。カカツ、クカツという微細なアタリはスルーして上下誘いを続け、ころ合いを見て仕掛けを回収。エサを付け直して再投入するパターンで探っていく。7時になり、大ドモで20センチ級の本命が上がる。これをきっかけにバタバタとアタリが続くかと思われたが単発に終わる。ハリはハゲバリ系を使っていたが、釣り方もしくは合わせ方がマッチしないのか、ゴンツツといいアタリがきてもハリ掛かりしない。そこで途中から丸セイゴ型の食わせ重視のハリに変更。すると8時過ぎにゴンツツと